

# はくさい

科名：アブラナ科  
 原産地：中国原産  
 生育適温：18～20  
 漢字：白菜

発芽適温：20～25

## 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき栽培								土づくり	種まき	-----		収穫

栽培に必要なもの(10 m<sup>2</sup>あたり)

- はくさい種.....0.7ml
- 肥料:堆肥 30kg
- 苦土石灰 1.0kg
- 元肥用化成肥料(10-8-9)1.5kg
- 追肥用化成肥料(10-2-9)1.0kg



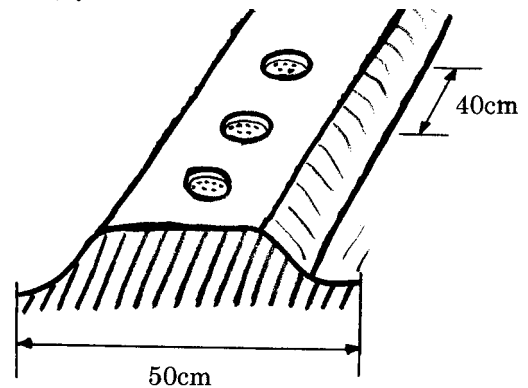
## 畑づくり

- ・ 9月の初旬に種をまくので、夏休み前に堆肥や苦土石灰を施用して、土づくりを行っておきます。
- ・ 短期間に旺盛な生育をし、根はよく伸びるので、深く耕します。
- ・ 植付け前に元肥を施し、60cmのうねをたてます。

## たねまき

うね幅 50cm 株間 40cm 1条植え

- ・ 秋のたねまきの時期が早すぎると、病害虫の発生が多くなり、逆に遅くなると結球しなくなるので、必ず適期にまくようにします。
- ・ うねの表面を平らにならしてから、びんや缶を使って、深さ1cmくらいのまき穴をつくり、1箇所につき7～8粒の種をまきます。
- ・ たねまき後に1cmくらい、土をかぶせ、軽くおさえてからかん水します。

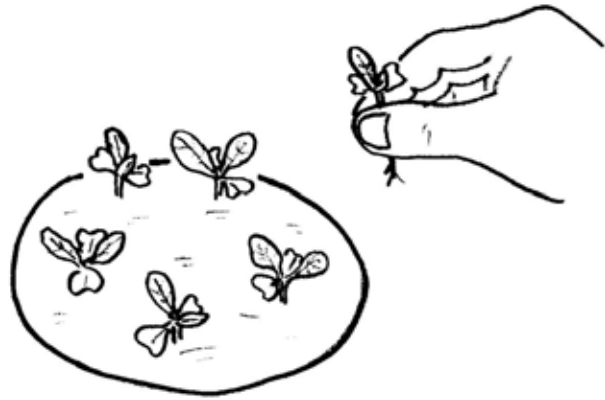


広島市内産「はくさい」

市内では、安佐南区佐東・安古市地区、安佐北区可部地区をはじめ、各地で栽培されています。初秋に種まきをして、秋冬に収穫する作り型が中心ですが、冬季にビニールハウス等で育苗して、春に収穫する栽培も行われています。最近では、サラダに向くミニハクサイの試作も行われています。

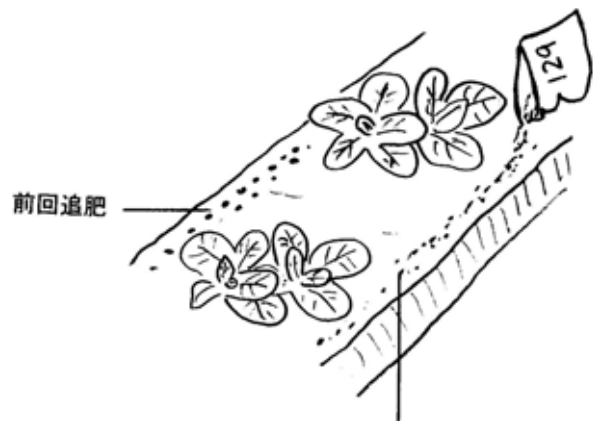
## 間引き

- ・ 間引きは3回に分けて行います。1回目は本葉1~2枚の時に、1ヶ所4~5本残します。さらに、本葉3~4枚ごろに2~3本に、本葉5~6枚ごろに1本立ちとします。
- ・ 台風や虫害のことを考えて、あまり早くから1本立ちにしないようにします。



## 追肥と土寄せ

- ・ 間引きのたびに、追肥を施用し、除草をかねて軽く表面を耕し、土と混合します。
- ・ 追肥後は、株元に土寄せをおこないます。
- ・ 結球が始まるころから急速に肥料を吸収しますので、肥料切れしないように注意して追肥します。



うねの肩に交互に追肥します

## 収穫

- ・ 100~120日で収穫できます。結球部の頭を押さえてみて、固くしまった感じがすれば、収穫期と判断できます。
- ・ 収穫時期になった株を、一度に利用しない場合には、外葉で球を包み、その上から新聞紙を巻きつけて霜や寒さでいたむのを防ぎます。



はくさいは、鍋物や漬物などに広く利用され、日本の食生活に欠かせない感のある野菜ですが、日本に伝わったのは意外と新しく、明治に入ってからです。

数多くの漬菜の中でも最も親しまれている野菜で、柔らかいので長く保存することはできないが、浅漬けの味は格別です。淡白な味なので、漬物の他、鍋物、煮物、炒め物と広範囲に利用され、最近ではサラダなど生食にも利用されています。

栄養面ではビタミンEが比較的多く含まれている野菜です。